

どんな学びをしているかを知って、
「安心」してほしい。

ネットモラル

全国の小中学校に一人一台端末を整備したGIGAスクール構想。この端末を使って、子どもたちの学びが変わりつつありますが、同時に様々なトラブルも起きており、情報モラル教育の必要性が改めてクローズアップされています。

ネットに繋がる端末を 小学生も持つことに保護者は不安

一人一台端末やクラウドといった、GIGAスクール環境が、全国の小中学校に整備されました。子どもたちは、一人ひとりがネットに繋がる端末を使って、学び始めています。端末を通して、友達と教え合ったり学び合ったりもしています。彦根市では、パソコン教室を改修した、アクティブラーニング教室を整備中です。これは動画編集やプログラミングができる高性能のパソコン、協働学習しやすい机や椅子などを整備し、GIGA時代に子どもが主体的に学ぶための教室です。GIGA開始当初は、保護者から不安の声も寄せられていました。ネットに繋がる端末を持つなら、ネットゲームやYouTubeばかりするのはないか、依存してしまうのではないか。私も子を持つ親として、その不安はよくわかります。

実際、GIGAを使っていると、様々な小さいトラブルは起きます。彦根市では、以前から情報モラル教育を行ってはいました。携帯電話の方や警察の方に来校していただいて、年に一回子ども向けに情報モラルの講演を開催していたのです。しかし、年に一回学んだぐらいでは、身につきません。

そんな時、「事例で学ぶNetモラル」を知り、アクティブラーニング教室の整備と併せて、全市立小中学校に導入しました。この教材は、子どもが遭遇しそうな様々な問題について、ドラマ仕立ての短い動画で学べるのが特徴です。IDやパスワードの管理や、端末でグループワークする時の注意点など、GIGAを使う時に起こりそうなトラブルや問題を扱った動画教材も収録されています。教室で起る課題は、学校や学級によって大きく異なりますが、多様なテーマの動画教材が収録されているので、子どもたちが遭遇しそ

うな問題について、先回りして学べます。一本一本の動画は短いので、ちょっとした空き時間でも学べます。GIGA活用を進めていくためにも、日常的に継続的に、情報モラルを学ばせたいと考えています。

親子でいっしょに学べば 不安は解消されていく

彦根市では端末を家庭に持ち帰らせていますが、「冬休みに家で保護者といっしょにNetモラルを見ましょう」という宿題を出した学校もありました。実はわたしの子どもも学校がそうで、「お父さん、今、学校ではこんな教材で情報モラルを勉強しているの知ってる？」と自慢げに見せてきたので、「もちろん」とわたしも自慢げに答えおきました(笑)。

我が家のように、親子でNetモラルを見ながら、各家庭で会話に花が咲いたことでしょうか。この教材から何を学んだか。学校では端末を使ってどんな学習しているか。学校で何やってるかわからないと親は不安になります。わかれば安心します。ある学校では、二か月に一回、朝の時間にみんな教材動画を見て話し合う活動をしており、その様子を学校ホームページでも公開しています。それを見て、保護者も安心していきます。このような取り組みの成果か、保護者からGIGAを不安視する声はほとんど聞かなくなりました。



彦根市教育委員会
学校ICT推進課
島野 友宏 主査

先生に教わった通り、ではなく 自分で考えていく学びが求められる

情報モラル教育に限らず、学校教育や家庭教育にも言えることですが、人間は一回や二回教わっただけでは変わりません。日常的に、継続的に、積み重ねて学ぶことが大事です。しかし繰り返しの学びでも、すぐに結果が出ないのが、教育の難しいところ。でも、学んだことは心のどこかに残っていること。いつか花開く時が来ます。「ああ、そういうことだったんだ」と腑に落ちて、言動が変わってきます。そのためにも、様々なことを学ばせて、子どもの「裾野」を広げてあげたいと思っています。

今までの学校は、「教え込み教育」が中心でした。先生に言われた通りに、学ぶ。それも大事なのですが、これからは、子どもたちが自分で考えて、課題を見つけて、自分なりに工夫して学んでいくことが求められます。「一教わったら三でできるようになる子ども」を育てると言えるでしょうか。

でもこれって、スポーツと同じなんですよね。私は中学校でハンドボール部の監督をしていましたが、先生の指示に従うだけでは、上達のスピードに限りがあります。自ら課題を持って、練習に取り組み、試合では、仲間と話し合いながら、一人ひとりが自分で判断してプレイする。私がスポーツの世界で大切にしてきた学びが、今後の教科の学びでも大切になると感じています。

こうした学習をするには、「相手」が必要です。友達や先生など他者との関わりの中で、人間は学び、成長していきます。だから、いい人間関係を築ける力が大事。情報モラルでは、SNSで友達とトラブルにならない使い方などを学びますが、ネットや端末を使う時も使わない時も、人と上手に付き合える力を育みたいと思います。

情報社会で生きていく力を 子どもたちに育みたい。

奇数月は「東小情報モラルの日」「事例で学ぶNetモラル」を使って楽しく学習！

1人1台端末やネット環境が、学校に導入されました。上手に使えるととても便利な道具ですが、間違った使い方をすると自分や他者を傷つけてしまう恐れがあります。

そこで本校では、情報モラル指導に力を入れています。まず奇数月を「東小情報モラルの日」と定め、全学年で「事例で学ぶNetモラル」を使った学習をしています。各学年に合った教材動画をみんなで視聴した後、クラスで話し合い、わかったことや気をつけたいことなどを、振り返りプリントにまとめます。この教材はストーリー仕立てで、子どもが遭遇しそうな場面からお話が展開するので、「あ！ ぼくもこんなことあった!」と、子どもは自分事としてとらえて学んでいます。



彦根市立稲枝東小学校
1年1組担任 ICT推進リーダー
平岩 優佑 先生

(左:北村正一校長先生 右:平岩優佑先生)



①情報モラル掲示板

- ①各学年が習った動画と子どもの振り返りは、校内の「情報モラル掲示板」に張り出す。「他の学年はこんなことを学んでいるんだ」と、子どもたちは情報モラルへの興味関心を深めている。
- ②「NetモラルCBT」の結果を分析し、各学年ごとに正答率が低かった問題を先生方に伝達。今後の指導に活かしている。

②GIGA通信

また偶数月には、「事例で学ぶNetモラルCBT」(4択×10問)を用い、子ども一人ひとりが端末を使って、情報モラルの理解度テストに取り組んでいます。先生もいっしょに取り組む中で、子どものつまずきに気付くことができ、今後の指導につなげることができています。こうした学びが習慣として身につけてきており、子どもたちは「今月の情報モラルの日はいつ?」と、楽しみにしています。また、普段の授業の中で、「これNetモラルで学んだことだ!」と、気をつけられるようになっています。

本校では、情報モラル指導カリキュラムを作り、どの学年でどの教材を見るか、どんな情報モラルを学ぶかを決めています。小学校6年間を通して、段階的に積み重ねて学べるようにしています。こうした取り組みを、学校通信などを通じて保護者の方々にも知っていただく予定です。

4月からは、「情報モラルの日」を毎月開催することも検討しています。カリキュラムをベースにしつつも、各学級の子どものための課題に合った教材を柔軟に選んで学べるようにしていく考えです。

小学校の6年間を通して、情報社会で生きていくための力を育ていきたい。どの情報が正しいかを適切に判断したり、困った事を自分で解決したりできるようになってほしい。そして、あらゆる情報とうまく付き合ってほしい。それが本校の願いです。

保護者のみなさまへ

ご家庭に学習者用端末を使うルールはありますか?

→ 学習者用端末を家庭へ持ち帰った場合のルールを考えましょう



安心・安全に活用するために



- ✓ 家庭での使用時間・場所を決める
- ✓ 端末を他人に貸し出したり、アカウント・パスワードを教えたりしない
- ✓ 勝手にアプリの追加・削除や設定の変更を行わない

ネットの特性と個人情報のあつかい



- ✓ 許可なく写真や動画を撮らない
- ✓ ネット上に個人情報を書き込まない
- ✓ ネット上に他人を傷つけたり、嫌な思いをさせることを書き込まない
- ✓ 不適切なサイトにアクセスしない

健康面への配慮



- ✓ 姿勢を良くし、画面から目を30センチ以上離す
- ✓ 30分に1回、画面から目を離して20秒以上遠くを見る
- ✓ 寝る1時間前は、端末を使わない

広教が

みんなの学びに向かう力を
全力サポート!
日々変わりゆく教育環境に合わせたため、
広教は学びを掲載し続けています。

大学の先生による オンライン講演を配信中!

「なぜ今 情報モラルなのか」
「保護者も一緒に学ぶ時代」など、
今後の家庭教育にも役立つ内容となっています

無料視聴
はこちらから



情報端末を活用した これからの学び

千葉大学教育学部 助教
八木澤 史子 先生



https://www.hirokyou.co.jp/netmoral/topics/trend_explorer/

広教ニュースレター

は、情報モラルや情報教育に関する
ニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生
方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社

〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号

TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082

URL <https://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

